

県中教育

随想

いわきの港の被災と復興

県中教育事務所 次長(総務担当)

柳沼 正一



昨年十月の台風十九号によって、県中域内でも甚大な被害が発生しました。亡くなられた方、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

さて、今回は、台風災害でしたが、九年前の東日本大震災による津波災害を思い出さずにはられません。

私は、震災後の平成二十四年四月から三年間「福島県小名浜港湾建設事務所」という港の管理と建設を担う事務所におりましたが、大地震による大津波は、小名浜港を始めとするいわきの港湾・漁港・海岸の施設に甚大な被害をもたらした。庁舎も浸水被害を受けました。被災した護岸や堤防は、新たな津波にも耐えら

れるよう堤防の嵩上げをしたり、庁舎も一階をピロティ(駐車場)とし、重要設備を二階以上に配置したりするなどの災害復旧工事が行われました。

その時事務所内で言われたことは、堤防や庁舎の工事は、ある一定の基準に基づく津波に耐えられる構造にするだけで、この工事が終わっても全ての津波に耐えられるものではなく、最も必要なことはいかに早く逃げるかということでした。

今回の台風災害でも同じですが、施設の整備は、一定の確率計算(五十年に一度、あるいは百年に一度の大雨等に耐えられる構造)に基づいて設計されたもので、全ての災害を防ぐことはできません。人間はどうしても過去の記憶に基づいて行動しがちで、今までにない災害が発生したときに命を守る行動をとれるようにするには、教育と訓練が何よりも大切かと思えます。

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所
発行責任者
石幡 良子
編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

最後に、いわきの港は、他県から延べ百五十四名の職員の応援をいただき、平成三十一年三月に震災関連の復旧事業が全て完了し、先日、「よみがえった!いわきの港」という冊子をいただきました。小名浜港は、災害復旧と並行し、東港地区国際物流センターの整備、小名浜マリンプリッジの完成、イオンスーパーセンターを核とする震災復興土地区画整理事業も進み、新たな魅力ある港に生まれ変わりました。機会がありましたら是非いわきの港を訪れてみてください。



おなほ海遊祭にて(H30.7)

COOL すかがわ

須賀川市教育委員会教育長 森合 義衛



NHKの「クール・ジャパン」という番組をよく観ます。日本の風習や文化・伝統などを紹介しながら、日本で暮らす外国人がどのように感じ、何に興味・関心があるのか等の意見を交わす番組です。時には、日本人の私たちが知らない作法やルーツなどが取り上げられ、興味深く楽しめます。

井の中の蛙ではありませんが、内部だけの近視眼的な見方では、見えない部分が沢山の良さ、さらには福島や須賀川の魅力や特長を、再認識することが大切です。

昨年十一月に放映された「クール・ジャパン」では、福島県の魅力の一部が取り上げられました。オランダ人技師の指導で完成した安積疏水の恩恵を受け、不毛の地とされた安積開拓より生まれた郡

山ブランド野菜。会津の侍文化の行動指針であり、日本精神の魅力として発信できる「仕の掟」。只見川の霧幻峡に代表される季節折々に秘境的な絶景が楽しめる奥会津の豊かな自然。私たちには何気ない福島の文化や自然が外国人にとつての魅力となることを紹介されたのです。

わが故郷、須賀川にも数多くのCOOLがあります。中でも、特撮の神様「円谷英二」と東京オリンピックのマラソン銅メダリスト「円谷幸吉」は特筆すべき偉人です。市民交流センターの円谷英二ミュージアムに続いて、『特撮アーカイブセンター』(仮称)が今年中に開館の予定です。また、今年の正月に行われた大学箱根駅伝では、東洋大学の相澤晃選手と明治大学の阿部弘輝選手が前人未到の区間新記録を樹立する大活躍でした。二人とも、第二の幸吉輩出を願って結成された「円谷ラッナーズ」クラブの出身です。今年もこれまで以上に「COOL すかがわ」を再発見できるように努めて参ります。

県 専 業 推 進 校 紹 介 ①

外 国 語 指 導 で 学 ぶ だ こと

石 川 町 立 石 川 小 学 校
教 諭 慶 徳 ひ る 子

外国語教育推進リーダーとして取り組んだ二年間で、たくさんの方を学ばせていただきました。

一つ目は、「目的」「場面」「状況」を大切にしながら単元計画です。単元のゴールが明確になっていけば、活動や内容も決まってくる。例えば、三年生の「This is for you.」の単元では、「大切な人に感謝の気持ちを伝える」という「目的」を達成するために「感謝のカードを作る」という「場面や状況」を設定しました。カード作りに必要な形を尋ねたり答えたりする活動を取り入れることで、相手意識を大切にしながら学ばせることができました。

二つ目は、「教えすぎない」ということです。指導している、ついつい先回りして教えてしまいがちですが、それでは子どもたちは育ちません。どう表現すれば良いのか分からず困ったときに初めて

その単語や文がその子にとって必要なものになるのです。

必要性を感じない学びは、その場ではできても、すぐに忘れてしまうものです。

三つ目は、「まちがってもいい」という雰囲気大切にしながら授業をすることで。私たちは失敗からたくさん学ぶことを学んでいます。私も授業中に A L T に発音を直されることがありますが、そんな時は子どもたちの前で練習するようにしています。私も英語学習者の一人として、子どもたちと一緒に学んでいます。もし文法が正しくなかったら、さりげなく正しい文で聞き返すだけで十分です。

来年度から外国語科がスタートします。英語が好きな子どもたちをたくさん育てることができるよう、これまで以上に研修に励みたいと思います。



県 専 業 推 進 校 紹 介 ②

キ ャ リ ア 教 育 推 進 校 と し て 福 島 県 立 岩 瀬 農 業 高 等 学 校

岩 瀬 農 業 高 等 学 校

「専門高校生による小中学生体験学習応援事業」として行っている須賀川市立稲田学園、平田村立蓬田小学校との体験学習は二年目を迎え、今年度は次の目的を掲げて事業を展開した。

① 小中学生が本校で体験学習を行うことにより、本校の学習内容に対する理解を深めるとともに、将来迎える高校生活に思いを馳せ、進学への意欲を高める。

② 本校生徒が体験学習を運営することにより、これまで学んだことを十分に振り返り、その内容と将来との関係性を認識するとともに、自らの取組に自信と誇りをもつ。

十月三十日、稲田小学校の児童三十五名が園芸科学科においてパンジーの鉢植えを体験した。また、同日に稲田中学校の生徒二十名が、本校各学科の特色を生かした体験学習を行った。さらには、十一月二十日に蓬田小学校の児童二十一名がヒューマンサービスクで多肉植物の寄せ植え体験を行った。

小中学生にとっては、本校の農業分野に係る学習内容に触れるとともに、「命の大切さ」や「働くことの喜び」を体感することにより、将来の進路選択の一助となる充実した体験学習となった。

一方、本校生徒は、小中学生に作業内容等を的確に伝えることの難しさを知ることや、伝わった時の喜びを味わうことができた。また、小中学生が真剣に体験学習に取り組む様子を目の当たりして、準備段階での苦労が報われる充実感をもつなど、今後の学習活動に十分生かされる体験学習となった。

このように、今年度も双方にとって貴重な体験となったことから、次年度に向けて更なる工夫、改善を図っていき



学 校 教 育 課 指 導 担 当 以 下 不 登 校 児 童 生 徒 へ の 取 組

平成三十年、本県の不登校児童生徒数が初めて二千人を超え、過去最多となりました。今年度は、昨年度よりもさらに多いペースで推移しており、不登校問題が本県教育の喫緊の課題となつてい

ます。県教育委員会では、不登校に関する調査において、今年度より不登校児童生徒数を「継続数」と「新規数」に分けてカウントするように改めました。不登校がなぜ続いているのか、どうして学校に来られなくなったのかをきめ細かくチェックできるようにすることがねらいです。

支援のあり方も、「不登校児童生徒への支援」と「新たな不登校が生じないような学校づくりの取組」の二つの視点で、対応することが重要です。不登校児童生徒には「チーム学校」で組織的に対応すること、新たな不登校が生じないようにするためには、児童生徒に自己肯定感・自己有用感を得させることがそれぞれのポイントです。

今後とも、子どもが安心して学べる環境づくりをお願いいたします。

県中教育事務所よりお知らせ

総務社会教育課
社会教育担当より

「地域と学校の協働活動推進に向けた学校訪問」

今年度より地域連携担当教職員が任命されたことに伴い、地域と学校との連携・協働を推進するため、各校の要請に応じて学校訪問を行っており、九月五日に要請訪問 I にあわせて石川町立野木沢小学校を訪問しました。

当日は教科別分科会の時間を利用して、教頭先生と学校支援コーディネーター、当事務所社会教育担当の三者で野木沢小学校の地域連携について協議を行いました。はじめに県中域内において地域との連携を教育課程において明確に位置付けている学校の取組や先進的な地域学校協働活動の事例について理解を深めました。後半は、野木沢地区や石川町内の現状や課題について協議を行い、地域と学校とのよい連携に向けた新たな展開について検討しました。

次の年度も要請訪問やそれ以外の場面でも要望があれば、社会教育担当が各校に足を運ばせていただきます。引き続き、総務社会教育課まで御相談ください。



【学校支援活動
「野小っこクラブ」の様子】

「ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業」

子ども数が減少していく中、県全体では過去最多の四五、四七七組の応募があり、県中域内からは昨年度に引き続き一万組を超え、過去最多となる一〇、四〇一組の応募がありました。審査の結果、県中域内からは最優秀賞二組、優秀賞一組、佳作五組が入賞しました。また、学校賞として九校、奨励賞として十五組を県中教育事務所長より表彰しました。各市町村及び教育委員会、幼稚園、保育所、学校関係者の皆様、審査委員として御協力いただいた退職校長会の皆様に心より感謝申し上げます。

〈最優秀賞〉

「なに読もう まいしゅう土曜日
「読む本の 変化に感じる」としよかん」

野木沢小 二年 佐藤 愛菜
母 佐藤 純子

「こめんなさい 素直に言えず
「メールでは 素直な娘に 苦笑い」

富田中 三年 村上 裕子
母 村上 裕子

〈学校賞〉

須賀川市立柏城小学校
石川町立野木沢小学校
石川町立野木沢小学校
石川町立野木沢小学校
平田町立常葉小学校
田川町立常葉小学校
郡山市立常葉小学校
玉川町立常葉小学校
浅川町立常葉小学校
田川町立常葉小学校

学校教育課管理担当より

教職員の

不祥事根絶のために

教職員の不祥事が相次いで発生し、今年度の教職員の逮捕者が五名となる深刻かつ危機的な状況になっていきます。

○不祥事を絶対に許さない職場の環境を全教職員で作らなければならない。

・ 服務倫理推進員研修会の伝達講習を必ず行う。

・ 管理職のリーダーシップのもと、「自分事」ととらえさせる研修を実施する。

・ 気になることを見逃さず、上司への報告・連絡・相談を徹底する。

○命にかかわる交通違反・交通事故をなくす意識改革をする。

・ ゆとりのある運転、制限速度を遵守する。

・ 運転中の携帯電話・スマートフォン等の操作は絶対に行わない。

「教育長メッセージ」をはじめとする各種通知を参考にし、各学校の研修において、公私にわたり強く自己を律すること、不祥事を根絶し、信頼の回復に努めるようお願いいたします。

総務社会教育課
総務担当より

総務担当より

★各種手当に係る注意点について

諸手当を正しく受給するために、事実が生じた日から十五日以内に所属長に届出をお願いいたします。

① 扶養手当

○ 扶養親族である配偶者又は子が就職したり、所得限度額を超過する収入を得ることになったりした場合、扶養親族としての要件を欠くことになるため、「扶養親族届」を速やかに提出してください。

○ 扶養手当上の所得とは総収入金額のことです。税法上の所得とは異なりますので注意が必要です。

○ 扶養親族に収入がある場合には、所得限度額を下回っているか随時確認をしてください。

ア 学生のアルバイト収入等が限度額を上回る場合がありますので注意してください。
イ 遺族年金や障がい年金は非課税のため所得証明書に反映されませんが、扶養手当上の所得に当たるので注意してください。

個人年金も扶養手当上の所得に含まれます。

ウ 老人ホーム等に入所している場合には、扶養親族の認定要件が通常と異なりますので、扶養親族が老人ホーム等に入所した場合は必ず事務担当者へ連絡してください。

② 住居手当

○ 住居手当上の「家賃」の額には共益費や駐車場代は含まれません。

○ 住居手当の支給を受けていた職員が転居する場合には、前に住んでいた住居に係る「家賃等の最終月の領収書」(口座振込の場合は通帳の写でも可)が必要ですので、忘れずに添付して提出してください。

★赴任旅費について

○ 赴任旅費は異動や採用に伴って転居(住所を移転)した場合に支給の対象となります。原則として発令日前の住所の移転は対象外となります。

○ 転居が自己都合によるものや、同一市内での転居、転居後も遠距離通勤となる移転等、通勤事情の改善が認められない場合は、原則として支給の対象になりません。